

大使館火災 続報！ - 西日本防災システム

2013 11 29

今年6月アフリカのコンゴ民主共和国の日本大使館が半焼した火災で、警視庁捜査1課が当時経理担当の3等書記官として現地に赴任していた20代の外務省職員の男による**放火**と断定したことが分かったそうです。捜査1課は今年8月と今月11日にも捜査員らを現地に派遣して、大使館が入るビル周辺の防犯カメラの画像データを分析し、この男が火災発生直前、大使館に入る様子などを確認したようです。放火容疑で男を逮捕する方針だそうです。

日本大使館はコンゴ首都キンシャサの4階建てオフィスビルの3、4階に入居していました。火災は6月20日夜に発生し、3階の一部と4階の全室が焼損しました。

大使や参事官の公室がある4階が出火元とみられていて、火災発生時は無人でこの火災によるけが人などはいませんでした。

外務省は、大使館内への出入りが常に制限されていたことなどから、内部犯行の可能性が高いと判断し、ウィーン条約の外交特権によって在外公館には現地当局の管轄権が及ばないため、外務省から相談を受けた警視庁は今年8月、捜査員らを現地に派遣し、実況見分や関係者への事情聴取を行っていたそうです。 [参考弊社NEWS](#) ➡

事情聴取や捜査の結果、ビル1階の共通エントランス付近の防犯カメラに出火直前、男が灯油缶のようなものを運び込む姿が写っていたことが判明したようです。

現場にはガソリンがまかれた跡があり、マッチのようなものも散乱していたようです。

この外務省職員は借金を抱えていたという情報もあり、捜査1課が関連を調べているそうです。



西日本防災システム
NISHINOHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ ➡